

大友義鎮年表

橋中
本野
操幡
六能

1534	1533	1532	1531	1530	紀元
天文三 <small>甲午</small>	天文二 <small>癸巳</small>	天文元 <small>壬辰</small>	享祿四 <small>辛卯</small>	享祿三 <small>庚寅</small>	年号
後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良天皇	天皇
	<p>○十二月 幕府大友義鑑の子新太郎（義鎮）を豊前守護となす（史料宗覧）※天文廿三・八参照</p>			<p>○正月三日 大友義鑑の子義鎮生る、幼名を塩法師丸といふ（豊後史蹟考）</p>	

1540	1539	1538	1537	1536	1535
天文九 <small>庚子</small>	天文八 <small>己亥</small>	天文七 <small>戊戌</small>	天文六 <small>丁酉</small>	天文五 <small>丙申</small>	天文四 <small>乙未</small>
後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良
<p>○六月 五郎義鎮と称す(右同書)</p> <p>○〃 五郎(義鎮)義の一字を将宣義晴より下賜さる(右同書)</p> <p>○二月三日 塩法師丸(義鎮)元服の祝儀として足利義晴より太刀一腰を送らる(大友史料第一輯)</p>	<p>○十一月 塩法師丸(義鎮)元服す(大友史料第一輯)</p>				<p>○正月 大内義隆、大友義鑑と相和し、義隆の女を以て義鑑の子義鎮に嫁す(歴代鎮西要略)</p>

1546	1545	1544	1543	1542	1541
天文十五 <small>丙午</small>	天文十四 <small>乙巳</small>	天文十三 <small>甲浦</small>	天文十二 <small>癸卯</small>	天文十一 <small>壬寅</small>	天文十 <small>辛丑</small>
後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良
<p>○是歲筑前古所の城主秋月文種大友氏に叛く、義鑑依つて長男義鎮及家臣佐伯・戸次・白杵・朽網・志賀・吉弘・吉岡・田村・小原・一万田等をして秋月文種を征せしむ（豊府紀聞）</p> <p>○十一月三日 大友義鎮足利義藤（後義輝）へ太刀一腰、烏目千疋を送りたるに對す返書あり（大友史料第一輯）</p> <p>○九月廿八日 義鎮足利義晴子息菊懂丸より小袖一重賜わる（大友史料第一輯）</p>					

1 5 5 0	1549	1548	1547
天 文 十 九 庚戌	天文十八 己酉	天文十七 戊申	天文十六 丁未
後 奈 良	後 奈 良	後 奈 良	後 奈 良
<p>○二月 入田丹後親貞の讒により愈々嫡子義鎮を廢す、入田後高崎に抛り義鎮を撃たんとする時に義鎮別府の温泉にあり乱を聞きて府内に帰り戸次鑑連、齊藤鑑実に命じて高崎を攻めしむ、乱平ぐ義鎮十九歳三月家督を襲ふ(古本九州軍記・豊府紀聞・歴代鎮西要略礼・大友系図)</p> <p>○二月十五日 義鎮津久見美作守、田口新藏人の乱における田北左近將監の忠を賞す(大友史料第一輯)</p> <p>○二月廿一日 大友義鎮志賀親守及其子親度と盟約す(史料宗覽)</p> <p>○三月十九日 入田親誠梅牟礼城において義鎮に叛す(大友史料第一輯)</p> <p>○六月廿八日 立願の為に上津八幡に小平田五反を寄進す(大野文書)</p> <p>○七月 大友義鎮四州の軍兵五万騎を以て肥後合志表を征す(一万田、岐部、久保、野上文書)</p> <p>○八月九日 大友義鎮の兵菊池義武を肥後隈木城に破り、これを肥前島原に敗走せしむ(史料宗覽)</p> <p>○是歳大友義鎮進んで合志城の合志親為を攻む、義鎮即ち舍弟義宗をして肥後の守護たらしめる(歴代鎮西要略・豊府紀聞)</p> <p>○冬筑後の星野、蒲池等大友氏に叛く、義鎮直に軍を遣はして之を平定す(豊府紀聞)</p>	<p>○八月 義鎮兵二万三千を率い肥後に向う(豊後史蹟考年表)</p>		

1 5 5 4	1 5 5 3	1 5 5 2	1 5 5 1
天文二十三 甲寅	天文二十二 癸丑	天文二十一 壬子	天文二十 辛亥
後 奈 良	後 奈 良	後 奈 良	後 奈 良
<p>○正月 義鎮足利義藤(義輝)に南蛮の鉄砲を献ず(大友史料第一輯)</p> <p>○三月廿三日 毛利房広の宮崎宮領に諸役を果し同宮弘華寺領を押妨するを停止す(田村文書)</p> <p>○八月十六日 義鎮肥前国守護職を補任せられる(大友史料第一輯)</p> <p>○八月 五郎義鎮新太郎義鎮と改名す(右同書)</p> <p>○十一月三日 重ねて紀伊金剛峯寺西生院勸進僧与阿をして分國中に下向し、領民の宿坊を同院に建立する資を募衆せしむ</p> <p>(西生院文書)</p>	<p>○六月廿日 紀伊金剛峯寺西生院に豊後大分郡の地を寄進す(西生院文書)</p> <p>○大友義鎮肥前を従へんと欲し先づ小式家を取立て資元の二男政興を以て小式家中興となす。國中の上過半政興に従ふ(軍記略)</p>	<p>○二月三日 美鎮・清田・志賀等として肥後に遣し同国における菊池義武の遺領を収めしむ(史料宗覽)</p> <p>○二月廿八日 宗育をして肥後広福寺住持職を安堵せしむ(広福寺文書)</p> <p>○八月二十日 ベルタザール・ガゴ等山口より府内へ來り義鎮に謁す(史料宗覽)</p> <p>○十月一日 元用をして肥後正観寺住持職を安堵せしむ(正観寺文書)</p> <p>○十二月 大友義鎮其臣戸次鑑連、齊藤鎮実、吉弘鑑理、臼杵、原田を以て六将とし二万騎を率ゐて豊前国に発向せしむ、毛利大敗す(古本九州軍記)</p> <p>○是歲当時大友義鎮西に威を振ひ其弟大内義長亦中国九州十六の國の主たり義鎮筑後の高橋鑑種(忠勤)を賞し、筑前宇満岳城に移し三笠郡を賜ふ(歴代鎮西要略)</p>	<p>○六月廿二日 大友義鎮肥後藤崎八幡宮に同国宮内庄の地等を寄進す(史料宗覽)</p> <p>○十月 是より先耶蘇會宣教師フランシスコ・ザビエル山口を去りて、豊後に赴き大友義鎮に謁し、この日ポルトガル船に乗りにて印度に歸る(史料宗覽)</p> <p>○是歲周防大内義隆の大老陶晴賢、逆心を起し密に大友義鎮に通じ其舍弟義長を乞ふて大将と為さんとす、義鎮諾す、九月晴賢共を以て山口城を襲ひ義隆を殺す(歴代鎮西要略)</p>

1 5 5 7	1 5 5 6	1 5 5 5
弘治三丁巳	弘治二丙辰	弘治元乙卯
正親町	後奈良	後奈良
<p>○大友義鎮兵數万を以て來り、龍王城に陣す、宇佐郡三十六人衆參陣す（歴代鎮西要略）</p> <p>○三月七日 旧に依り豊後東井坊をして禪福寺及円通寺を管掌せしめ其点役を免す（豊後國諸家文書）</p> <p>○六月廿二日 義鎮、広津治郎大輔宅所に山田安芸守取懸に對し參戰の諸士の忠を賞す（田原文書續大友史料一）</p> <p>○七月 秋月文種・山田隆朝等逆心につき合戦の蛸瀬鎮忠の忠を賞す（蛸瀬文書）</p>	<p>○此頃皆自立の志を抱き大友家に叛く、依て此年の秋大友義鎮は大軍を率ゐて府内を發し宇佐郡龍王城に至り、此城を以て本陣となし、兵を分つて諸城を攻む、宇佐郡の三十六人衆先づ降參し、長岩城、松山城、馬ヶ岳城、三ヶ岳城、神田城、佐野城陥り、何れも降參す、又彦山の衆徒も降る、是に於て義鎮田原親賢を以て宇佐郡妙見岳城に入り、龍王城城相次でを兼ねしむ、山内内記を以て龍王城の城番となし、城本の二氏に命じ田河郡岩石城を守らしむ、之より豊前の国士等毎年八月朔日を以て、太刀馬の使を府内に遣はし、君臣の礼を述べ（軍記略・豊府記聞）</p> <p>○是頃、大友義鎮豊前を平定するや、田原親賢（紹忍）を豊前探題として妙見ヶ岳城に居らしめ、豊前の城主、小給人凡そ四百六十人の人質をとる、かくて親賢は百六人の武士を妙見城に在番せしめたり（西州軍談）</p> <p>○九月 義鎮兩雲鉄砲を義陣に獻す（大友史料第一輯）</p> <p>○十二月 大友義鎮千葉某等を筑前に遣し、大内義長の都督原田親種を討たしむ（史料宗覽）</p>	<p>○九月廿六日 万松院殿（義晴）七年忌仏事のため義鎮式百貫文寄進すべく仰下さる（大友史料第一輯）</p> <p>○十月 肥前筑前の將士謀反す（右同書）</p> <p>○十月 陶晴賢嚴島に於て毛利元就の為に討たる、元就進んで周防の山口を襲ふ、大内義長赤間関に退き援を大友義鎮に乞ふ（歴代鎮西要略）</p> <p>○二月 豊前国士大友家に叛く義鎮即ち志賀、田北、朽網、利光を大将となし宇佐郡に出向せしむ（古本九州軍記）</p> <p>○六月 万松院殿（義晴）七年忌に義鎮二万疋を獻す（大友史料第一輯）</p> <p>○この頃筑前の秋月種実、私に毛利氏に属し大友氏に叛く、義鎮怒り七月七日戸次鑑連・臼杵鑑遠・高橋鑑種等を遣り、二万余騎を以て夜須郡古所城を攻め、秋月文種と戦ふ、文種敗れて秋月城に籠る、其三子秋月種実・高橋種冬・長野種信共に降參し、城中より遁れ出づ（軍記略）</p>

1 5 6 0	1 5 5 9	1 5 5 8
永 禄 三 庚申	永 禄 二 己未	永 禄 元 戊午
正 親 町	正 親 町	正 親 町
<p>○三月 大友義鎮吉岡長増・同増隆・雄城惟周・波多鑑員等を遣はし、筑前豊の節度使と為し、以て筑紫秋月及毛利の軍を退治せしむ（歴代鎮西要略）</p> <p>○三月十六日 義鎮入洛す（大友史料第一輯）</p> <p>〃 義鎮鉄砲を献ず（右同書）</p> <p>〃 義鎮左衛門督に補任せらる（右同書）</p> <p>○十二月廿七日 老松社領の地を守護不入とす（歴世古文書）</p>	<p>○四月 筑紫惟門中国より本領肥前に帰り諸城を攻略す、大友義鎮筑前・筑後・肥前の将士をして之を撃たしむ（歴代鎮西要略）</p> <p>○六月廿六日 義鎮豊前国守護職に補任せらる（大友史料第一輯）</p> <p>○六月廿六日 義鎮筑前国守護職に補任せらる（右同書）</p> <p>○七月三日 豊後大原八幡宮に竹田の地を寄進す（橋本文書）</p> <p>○九月 義鎮大内家督祝儀として太刀一腰、青銅万足を將軍に送る（大友史料第一輯）</p> <p>○九月十八日 宮崎八幡宮司泰弘重をして大宮司領同国郡珂郡の地を安堵せしむ（宮崎要記）</p> <p>○九月 豊前・筑前・肥前国守護補任について義鎮太刀一及び青銅万足を將軍に献ず（大友史料第一輯）</p> <p>○是秋大友義鎮府内神宮寺浦を開港し外国商人に互市を許す（史料宗覽）</p> <p>○十一月九日 義鎮九州探題職に補任さる、又大内家家督の事につき一任さる（大友史料第一輯）</p>	<p>○六月十九日 義鎮の部将戸次鑑連・高橋鑑種伊予を侵す（史料宗覽）</p> <p>○六月宗像氏貞許斐城に叛す（大友史料第一輯）</p> <p>○此歳將軍義輝、使を豊後に遣し、大友義鎮を賞し、九国の軍勢を率ゐて上洛すべき由を命ず、義鎮乱世の故を以て辞す、豊府日に繁華を極め、府内より高崎城まで土宅商家相続ぐ（軍記略）</p> <p>○是歳より数艘の南蛮船横瀬浦と臼杵の丹生嶋とに着く、大友義鎮府内を賑さん為に之を召致す（古本九州軍記・隱徳太平記）</p>

1 5 6 3	1 5 6 2	1 5 6 1
永 禄 六 癸亥	永 禄 五 壬戌	永 禄 四 庚申
正 親 町	正 親 町	正 親 町
<p>○七月廿八日 大友義鎮成太寺豪宗越前入道宗智を筑後に遣はし、肥後・筑後・肥前の諸將を巡検せしむ (歴代鎮西要略)</p> <p>○(参考) 十二月 大友義鎮世を義統に譲りて臼杵の丹生嶋に移り、法名を宗麟と称す (歴代鎮西要略・豊府紀聞)</p> <p>○是歳大友義鎮は筑後の浦池鑑盛及び其他の諸將に命じて龍造寺隆信の小式家復興の計画を聞き西嶋の城を攻むるを防がしむ隆信の軍勝たずして退く (軍記略)</p> <p>○是歳大友義鎮石松檢校を朝鮮に使せしむ、船漂流して琉球に至り三絃を伝へて帰る (豊後全史)</p>	<p>○五月一日 丹生島に移り義鎮剃髮して宗麟と号す (大友系図写)</p> <p>○九月十三日 大原八幡をして若宮殿修理料所田嶋の地を安堵せしむ (橋本文書)</p> <p>○弘治元年よりは歳頃まで円寿寺に寺領安堵を与ふ (円寿寺文書)</p> <p>○是歳太宰府城主高橋鑑種大友氏に背き、筑紫広門・秋月種実等と結び毛利氏に通ず、大友義鎮依つて雄城惟周・波多鑑貞・大鶴鎮周をして筑前に居らしめ秋月鑑種を監視す (歴代鎮西要略)</p> <p>○是歳毛利氏の兵を破るために宇佐八幡に戦勝を祈願す (立花文書)</p> <p>○正月廿七日 大友義鎮、毛利氏の属城豊前松山城を攻めて敗北す (国史便覧)</p> <p>○二月廿一日 大原八幡宮に若宮殿修理所を寄進す (橋本文書)</p> <p>○三月上旬大友義鎮豊前の敗戦を回復せんと欲し兵五万余騎を以て豊前に発向す勝敗決せず、勅使調停により和成る、八月下旬大友宗麟の息女を毛利輝元に嫁すこととなる (歴代鎮西要略)</p>	<p>○六月三日 大友義鎮肥後・筑後・豊後・日向等の軍勢三万騎 (五万騎) 引卒し豊後園木村を発し豊前に向ひ毛利氏の味方を攻む (軍記略・歴代鎮西要略)</p> <p>○十月廿六日 義鎮門司平城口防戦に於ける忠を賞す (一万田文書)</p> <p>○十一月 大友義鎮の社奉行泰多銀基、私怨により宇佐大官司津到公澄の館を焼き公澄を筑紫山野村に殺す (史料宗覽)</p>

1 5 6 7	1 5 6 6	1 5 6 5	1 5 6 4
永 禄 十 丁卯	永 禄 九 丙寅	永 禄 八 乙丑	永 禄 七 甲子
正 親 町	正 親 町	正 親 町	正 親 町
<p>○三月十三日 宗像社大宮司宗像氏貞の忠貞を賞し、同社領を安堵せしむ（宗像神社文書）</p> <p>○七月 筑前の高橋・秋月・筑紫・原田等安芸の毛利元就と相応じて大友氏に背く、高橋鑑種は宝満岩屋若杉等の城を保ち、秋月種実、古所城小隈秋月等の城を保ち、筑紫良龍は筑紫城勝尾城を保つ、大友宗麟大いに怒り戸次鑑連・臼杵鑑速・吉弘鑑理等をして二万余騎を以て之を討たしむ（軍記略・歴代鎮要要略）</p> <p>○十一月二十四日 大友義鎮は吉弘左近太夫及臼杵越中守・戸次伯耆守に対し、必ず氏貞と共に鎮定すべく西郷三百十町分は先般定め置き渡し遣はしたる坪付により処理せよと命令せり（吉弘文書）</p> <p>○是歳筑前の田原親種高良山に楯籠る、依つて大友義鎮高良山を遠攻にす（軍記略）</p>	<p>○二月廿一日 豊前国關所闕目のことにつききびしく検使せしむ（大友史料第一輯）</p> <p>○五月廿八日 豊前求菩提山衆徒の離山を停め、速に帰山せしむ（求菩提山文書）</p>	<p>○六月廿二日 長野筑後守里城を攻む（入江文書）</p> <p>○八月十三日 長野筑後守要害を攻む（大友史料第一輯）</p> <p>○（参考）是歳大友義鎮心驕り政治に怠り、且つ女色に耽る、是に於て老臣等之を諫め新館を海部郡丹生嶋に造る、義鎮新館に入り剃髮して宗麟と称し法名を瑞峯と号す、一族家老三十余人同時に剃髮す（軍記略）</p> <p>○是歳宮崎宮をして豊前・筑前における宮領を安堵せしむ（宮崎宮文書）</p>	<p>○四月 大友義鎮書を城主横岳鑑貞に送り激励する所あり（歴代鎮西要略）</p> <p>○七月廿五日 義鎮・元就と和睦す（大友史料第一輯）</p> <p>○是歳赤筑後国士毛利元就に應じて義鎮に叛す、義鎮これを平定す（歴代鎮西要略・軍記略等）</p> <p>○是歳永詮して肥後大輪寺住持職を安堵せしむ（大友文書録）</p>

1570	1569	1568
庚午 元	己巳 十二 祿	戊辰 十一 祿
親 町	正 親 町	正 親 町
<p>○二月 宗麟筑前諸將に命じて秋月種宗を討しむ (大友史料第一輯)</p> <p>○七月廿三日 宗麟立花鑑載退治の時諸將の忠を賞す (右同書)</p> <p>○九月十二日 毛利と多々良浜にて会戦す (右同書)</p> <p>○十月 毛利勢豊前を攻む (右同書)</p> <p>○十一月 宗麟一万田等をして龍造寺隆信を討しむ (右同書)</p>	<p>○高橋鑑種・秋月種実・筑紫良龍・原田了榮等を親しみ、頼りに大友氏の領地を犯す、是に於て大友宗麟大に怒り、之を征せんとして、正月十一日軍を率いて筑後高良山に向う、戸次鑑連・臼杵鑑速・吉弘鑑理を先陣となし、玖珠に於て諸国の諸將に牒合し高良山に至り吉見嶽城を構へて宗麟の本陣とす (歴代鎮西要略)</p> <p>○三月 龍造寺隆信征伐のため宗麟臼杵を發す (大友史料第一輯)</p> <p>○五月十八日 立花表に於て合戦す (右同書)</p> <p>○五月 宗麟玖珠郡衆をして長岩狼籍の者に対処せしむ (帆足文書)</p> <p>○八月九日 防州合尾浦に於て合戦す (大友史料第一輯)</p> <p>○八月廿九日 豊前田川郡香春岳麓于飯村に於て合戦す (右同書)</p> <p>○豊雲間の和睦のため將軍家より調停さる (右同書)</p> <p>○十月九日 豊前規矩郡東小倉并小田村等に於て合戦す (右同書)</p> <p>○二月三日 豊雲和睦のため義昭より調停あり (大友史料第一輯)</p> <p>○三月 宗麟豊前・筑前の地を割り諸士に授く (右同書)</p> <p>○卯月廿三日 肥前国佐賀表における合戦の時の疵らる人着到に披見を加ふ (吉弘文書)</p> <p>○是歳田原紹忍筑後玉垂社田楽小路に禁制を掲ぐ (梅津文書)</p> <p>○大友宗麟隆信の叛逆を怒り七ヶ国の軍勢を出す其兵十万余、春三月宗麟高良山に出陣す、大友宗麟、田尻鑑種を誘いて隆信</p>	<p>○高橋鑑種・秋月種実・筑紫良龍・原田了榮等を親しみ、頼りに大友氏の領地を犯す、是に於て大友宗麟大に怒り、之を征せんとして、正月十一日軍を率いて筑後高良山に向う、戸次鑑連・臼杵鑑速・吉弘鑑理を先陣となし、玖珠に於て諸国の諸將に牒合し高良山に至り吉見嶽城を構へて宗麟の本陣とす (歴代鎮西要略)</p> <p>○三月 龍造寺隆信征伐のため宗麟臼杵を發す (大友史料第一輯)</p> <p>○五月十八日 立花表に於て合戦す (右同書)</p> <p>○五月 宗麟玖珠郡衆をして長岩狼籍の者に対処せしむ (帆足文書)</p> <p>○八月九日 防州合尾浦に於て合戦す (大友史料第一輯)</p> <p>○八月廿九日 豊前田川郡香春岳麓于飯村に於て合戦す (右同書)</p> <p>○豊雲間の和睦のため將軍家より調停さる (右同書)</p> <p>○十月九日 豊前規矩郡東小倉并小田村等に於て合戦す (右同書)</p> <p>○二月三日 豊雲和睦のため義昭より調停あり (大友史料第一輯)</p> <p>○三月 宗麟豊前・筑前の地を割り諸士に授く (右同書)</p> <p>○卯月廿三日 肥前国佐賀表における合戦の時の疵らる人着到に披見を加ふ (吉弘文書)</p> <p>○是歳田原紹忍筑後玉垂社田楽小路に禁制を掲ぐ (梅津文書)</p> <p>○大友宗麟隆信の叛逆を怒り七ヶ国の軍勢を出す其兵十万余、春三月宗麟高良山に出陣す、大友宗麟、田尻鑑種を誘いて隆信</p>

1575	1574	1573	1572	1571	元
天正三 乙亥	天正二 申戌	天正元 癸酉	元龜三 壬申	元龜二 辛未	元
正親町	正親町	正親町	正親町	正親町	正
<p>○是歳大明の商船（葡萄牙か）豊後臼杵浦に舶す、虎・象・孔雀・鸚鵡・麝香・絵書等舟中に多し、宗麟之を得たり（豊後記聞・歴代鎮西要略）</p>	<p>○七月 大友宗麟舞楽を臼杵に催し、佐伯惟教・田原親賢・田北鎮周・朽綱鑑康・志賀親安等の舞を見る又自らも演ぜり（豊後史蹟考）</p>	<p>○当時大友宗麟已に九州を管し、嶋津義久三州に起ち龍造寺隆信亦肥前に自立す。九州遂に三分す（歴代鎮西要略）</p>	<p>○三月二十三日 賀来社祠官をして明年同社大神宝会の資を催促せしむ（大友文書録）</p> <p>○四月 四国一条兼定の救助のため渡海す（大友史料第一輯）</p> <p>○七月十九日 飯森要害に於て合戦す（右同書）</p> <p>○是歳ポルトガル船豊後に来りヤソ教と伝ふ、宗麟一寺を丹生嶋に建て之を奉ず（外交志稿）</p>	<p>○三月廿九日 才能の士を招致し、吉田牧庵、大徳寺宗悦之に応じて豊後に下る（大友文書）</p> <p>是歳宗麟、宗悦に参禪す（大友興廢記）</p>	<p>に遣はし和を講ぜしむ、適々將軍義昭の使者来り両軍の和睦を命ず、二氏依つて命を奉じ隆信は岩部相摸守を高良山の宗麟の陣に遣はして和を質し捕虜を大友氏に返す。十二月二日 大友宗麟豊府に帰る（歴代鎮西要略・軍記略・豊府紀聞）</p>

1580	1579	1578	1577	1576
天正八 庚辰	天正七 己卯	天正六 戊寅	天正五 丁丑	天正四 丙子
正親町	正親町	正親町	正親町	正親町
<p>○二月 田原親貫逆心の企に対し家中の忠心を賞し今後の働きを促す(菫嶋文書)</p> <p>○四月 大友宗麟曰梓鑑富・小佐井鑑直を筑前に遣はし、以て立花道雪、高橋紹雲を助けて龍造寺党を討たしむ(歴代鎮西要略)</p> <p>○四月十三日 円弁(義鎮) 田北紹鉄を日田郡五馬庄に討つ(田原文書等)</p> <p>○十一月十二日 府蘭義鎮宇佐郡佐野切寄取崩の忠を賞す(津嶋文書)</p>	<p>○正月十一日 大友宗麟九州探題職を嫡子義統に譲る(軍記略)</p> <p>○是歳大友宗麟兵を筑後に遣はす(軍記略)</p> <p>○是歳大友宗麟野上一閑・坂本道列等を筑前に遣はして立花道雪・高橋紹雲を援けしむ、野上一閑は大窪に於て秋月種実の臣に討たれ、坂本道列亦敗れて豊後に帰へる(歴代鎮西要略)</p>	<p>○三月 大友宗麟自ら兵を日向に進む(豊後諸家文書)</p> <p>○十二月 秋月種実豊後に叛す(歴代鎮西要略)</p> <p>○〃 龍造寺隆信豊後に叛す(右同書)</p> <p>○伊東義祐を日向に帰へす、之によつて宗麟の武名揚り、七ヶ国の覇道成る(豊府紀聞・歴代鎮西要略)</p>	<p>○十一月十三日 信長中國征伐の時宗麟親子麾下に属す(大友史料第一輯)</p>	<p>○是歳葡萄牙人豊後に來り、大砲二門を大友宗麟に贈る(外交志稿)</p>

1587	1586	1585	1584	1583	1582	1581
天正十五 <small>丁亥</small>	天正十四 <small>丙戌</small>	天正十三 <small>乙酉</small>	天正十二 <small>甲申</small>	天正十一 <small>癸未</small>	天正十 <small>壬午</small>	天正九 <small>辛巳</small>
後陽成	正親町	正親町	正親町	正親町	正親町	正親町
○五月二十三日 宗麟臼杵城に於て逝去す（五十九才）、法名瑞峯院殿休安宗麟大居士（大友系図・豊陽志）	○三月 大友宗麟上洛して嶋津氏の進出を訴へ援を秀吉に乞ふ（軍記略・陰徳太平記） ○九月木付鎮直と紹一の調停を依頼す（城田文書）		○三月 大友宗麟、義統と謀り、豊臣秀吉の援を得て嶋津氏を征せんとす、依つて三月下旬宗麟一千余兵を師めて豊府を発し、同四月初大坂に至り、秀吉に謁し虎皮百枚を獻じて援を乞ふ、數日滞在して歸る（豊府記聞） ○此春宗麟植田玄佐を羅馬国に遣はす、玄佐彼地にて病死す（外交志稿・豊府記聞）	○六月 大友宗麟使を遣はして明国に聘せしむ（豊後全史） ○十月十二日 宇佐郡佐野切寄の時津崎大和入道の忠を賞す（津崎文書）	○八月十一日 宗麟親家入郷以来忠心のあつた津崎大和入道に法名として麟春を与ふ（津崎文書）	○正月 龍造寺大友の一族国内にありて各々雄を争ふ大友宗麟志賀・一万田をして肥後を征せしむ（歴代鎮西要略、彦山紀事） ○大友配下の筑後土漸く離叛して隆信に従ふ、宗麟即ち吉岡・臼杵・田原等をして筑後に遣はし、諸城を攻めんとす。龍造寺政家之を聞き自ら大将となり筑後に発向す（軍記略）